

様式1（視察用）

会派行政視察報告書

令和5年度会派 青雲倶楽部 の行政視察研修を、令和5年5月23日(火)から5月25日(木)の2泊3日にて執り行いましたので、その概要を下記のとおり報告いたします。

令和5年6月21日

名取市議会議長 菊 地 忍 様

会派名 青雲倶楽部

代表 山田 龍太郎 

記

- 1 期 日 令和5年5月23日（火）～5月25日（木）
- 2 参加人員 3名 議員 熊谷 克彦、議員 大泉 徳子、
議員 山田龍太郎
- 3 視 察 先 (1) 鹿児島県姶良市
(2) 鹿児島県南九州市
(3) 鹿児島県指宿市
- 4 行 程 表 別紙のとおり
- 5 調査事項 別紙のとおり
- 6 所 感 別紙のとおり



令和 5 年 青雲倶楽部視察研修行程表

日程	行程	視察先及び視察項目	宿泊
令和 5 年 5/23 (火)	仙台空港(7:35発) JAL2200便 ⇒⇒⇒ (8:55着)伊丹空港(9:25発) JAL2403便 ⇒⇒⇒ (10:40着) 鹿児島空港(11:30発) バス・鹿児島空港線 ⇒⇒⇒ (11:45着)高速帖佐 昼食後・徒歩 …… 13:30～15:30 始良市議会視察 徒歩 …… 帖佐(16:27発) 日豊本線 ⇒⇒⇒ (16:56着)鹿児島… (17:06発) 路面電車・鹿児島市電2系統 ⇒⇒⇒ (17:17着)高見馬場…鹿児島市内(宿泊)	鹿児島県始良市議会 所 在 地 始良市宮島町 2 5 番地 電話番号 0995-66-3197(事務局) 調査項目 1 第 2 次始良観光おもてなし計画 について	ホテル法華クラブ鹿児島 所 在 地 鹿児島市加治屋町 13-6 電話番号 099-223-0551
5 /24 (水)	ホテル…高見馬場(6:44発) バス・鹿児島交通 ⇒⇒⇒ (8:01着) 中郡 街並み視察 …… 13:00～15:00 南九州市議会視察 タクシー …… (16:33発)西瀬娃 指宿枕崎線 ⇒⇒⇒ (17:15着)指宿 …指宿市内(宿泊)	鹿児島県南九州市議会 所 在 地 南九州市知覧町郡6204番地 電話番号 0993-83-2511(事務局) 調査項目 1 畑の里 水土利館の取り組みについて	夫婦露天風呂の宿 吟松 所 在 地 指宿市湯の浜 5-26-29 電話番号 0993-22-3231
5 /25 (木)	ホテル…指宿(9:32発) 指宿枕崎線 ⇒⇒⇒ (9:34着) 二月田 徒歩 …… 10:00～12:00 指宿市議会視察 昼食後・徒歩 …… 田口田(13:51発) バス・鹿児島空港線 ⇒⇒⇒ (15:42着) 鹿児島空港 (18:10発) JAL2412便 ⇒⇒⇒ (19:20着)伊丹空港 (19:40発) JAL2215便 ⇒⇒⇒ (20:55着)仙台空港	鹿児島県指宿市議会 所 在 地 指宿市十日町2424 電話番号 0993-22-2111 内線 5 1 1 (事務局) 調査項目 1 指宿まるごと博物館推進事業について	

視察先 鹿児島県始良市（あいらし）

日時 令和5年5月23日（水） 午後1時30分～午後3時30分

視察事項 第2次始良観光おもてなし計画について

始良市

- ・始良市は、平成22年3月23日に、旧3町（加治木町、始良町、蒲生町）が合併し、始良市となった。
- ・令和5年4月1日現在 人口 78,123人。合併後人口が増加。人口が増加している市
- ・面積231.25km²。

議員定数 24人

始良市概要

- ・県の中央都市、鹿児島市の中心部まで約20km。鹿児島空港まで12km。
- ・九州自動車道及び東九州自動車道がとおり、1つのジャンクション、3つのインターチェンジ。JR5つの駅。
- ・住みよい街 3年連続1位。（大東建託 居住者満足度調査）
- ・集いスポット

蒲生の大きいクス（幹回り24.2m）

重富海岸（大河ドラマのロケ地）

竜門滝（高さ46m、幅43m）

・参考

- ・2023年 鹿児島国体。 始良市での開催種目
バスケットボール、ライフル射撃、ゴルフ、
- ・始良市役所本庁舎 令和5年度完成予定

視察研修 第2次始良市観光おもてなし計画について

1 計画策定の目的

- ・地方で、自然、歴史、文化、産業、人など独自の地域資源を活用した観光による地域活性化の可能性が大きく膨らんでいる。
- ・高い付加価値を生み出すことができる新たな産業分野として観光が期待される。
- ・国は訪日観光客数を、2020年時点では4000万人とする目標を掲げている。
- ・産業としての観光振興による雇用の場の拡大と交流人口の獲得、定住人口の確保を図り地域の活性化を目指す。

2 計画の期間

- ・ 2019年度～2023年度（5年間）

3 始良市の観光における課題

- ① 観光資源の活用における課題
 - ・ 観光資源をつなぐ観光づくり
 - ・ 観光資源の整理とストーリー化
- ② 観光環境における課題
 - ・ 桜島地区及び霧島地区からの誘客
 - ・ 外国人観光客の受入れ体制の整備
- ③ 観光情報の発信における課題
 - ・ 外国人観光客への効果的な情報発信
- ④ 市民活動に関する課題
 - ・ 市民主体の観光ガイドや都市農村交流等の利活用
- ⑤ 経済効果における課題
 - ・ 市内観光の時間消費に対応できる魅力づくり
 - ・ 商業、農業、工業と観光分野との密接な連携

4 基本方針と基本施策

- ①観光資源を観て体験してもらう。
 - 地域資源周辺の環境整備、観光メニュー、プログラムづくり
- ②人が活躍できるプロセスづくり
 - 市民、地域の取り組みの維持・強化。
- ③戦略的な情報共有と広域連携
 - 情報発信手法の多様化とメディアの活用
- ④観光関係事業者などの育成と連携
 - 観光関連事業者等との連携・育成

5 課題に対する取組み

- ①観光資源の活用
 - 「歩こうよ！あいら」、「重富海岸」体験イベントの開催
- ②観光環境の整備
 - 無料 WIFI 整備 多言語対応 観光アプリ対応。蒲生のクス保全事業等
- ③観光情報の発信
 - 観光案内所開設。FM での情報発信

④市民活動

日本一大楠どんと秋まつり

※以上の説明を受けた後、質疑意見交換等を行った。質疑概要は以下のとおり。

質→コミュニティFMがイオンの中に設置されているがその考え方について

答→コミュニティFMは民間なので協賛金等イオンの中にあれば集めやすいという考え方である。また、建物等が丈夫であり災害時にも活動できる拠点となる。大雨の際には防災情報を発信している。防災の面からもイオンの中に設置していることはメリットがある。ただ、直接外の状況が見えないので雨等外の状況を確認しながら放送している。

質→市と協定等を締結しているのか

答→市と包括連携協定を結んでおり、防災の面や市民サービスの面である。住民等の交付等がイオンの中できるようになっている。

質→体験型ツアーで300人以上集まっているがその要因について

答→モニターや参加者の方々の情報発信力があるのではないかと認識している。

質→誘客する上での課題はなにか。

答→宿泊場所等が少ないのが課題である。ビジネスホテル等が進出していただけるとありがたい。

質→計画年度の最終年度に当たると思いますが課題をどのように捉えているか

答→鹿児島市と霧島市の間にあるので素通りしないよう着地型観光を目指している。また本市に立ち寄る観光も目指してきた。宿施設が少ないとの課題は解決できていない状況であるが、本市に立ち寄るような「あいらフットパス」を設定した。健康づくり、地域活性化の面からも異議深い事業であると認識している。土産品の開発に取り組んでいる事業者もある。また、課題の一つとして人材の育成がある。40代、50代の育成が課題である。

質→地域の資源を活用した「あいらフットパス」の内容について

答→観光地という概念ではなく、地域にある資源を有効に活用し様々なルートを設定し、そのままの自然を楽しんだり、またちょっと立ち寄ることができる飲食店があったりというルートを設定している。

質→どのような地域を設定しているのか。また、イベントの時だけのルート設定か。

答→都市部だけでなく農村地域もルートを設定している。まだ、イベントの時だけでなく常時ルートを競ってしている。イベントの際は、ルートの中に盛り上げるべく飲食ができる所を設定するなど工夫している。おもてなしを大切にしている。

質→イオンモールが進出してきたことによる影響について

答→イオンモール進出以前から、大隅半島や薩摩半島があり、利便性の高い地域であることから店舗の進出が多かった。イオンモールだけの進出云々という捉え方でなく地域の特性として店舗の進出が多いということである。従来の商店への影響は相応の範囲であり創意工夫しながら対応しているが困難なこともある。

考察

始良市は鹿児島市と霧島市の間にあり通過都市とならないよう滞在型観光、人が立ち寄る観光に取り組んでいる。平成22年3月に旧3町村が合併をしたが、それぞれの地域の資源・特性を活かしながら滞在型観光や各地域へ立ち寄るような観光施策を実施している。観光とは思われない所や地域資源を活用し誘客に向けて取り組み、実践していることは参考になったところである。訪日外国人の誘客、体験型観光、異業種の土産品等開発等、様々な方々が様々な角度から観光面での誘客、交流人口の増に取り組んでいる。このような積み重ねが交流人口の増に繋がり地域の活性化につながるものと思慮する。始良市は、地政学的に本市の特性と類似している面もあり研修で得た事項を生かし本市の観光行政の推進及び地域活性化に資するよう取り組んでいきたい。



鹿児島県南九州市

=== はた さと みどりかん 畑の里 水土利館の取り組み ===



- 実施日時：令和5年5月24日(水) 13時～15時
- 視察自治体：鹿児島県南九州市/耕地林務課 管理係
- 調査目的：「畑の里 水土利館」の取り組みについて
- 報告者：大泉徳子

▶南九州市の概要

南九州市は鹿児島県薩摩半島の南部に位置し、東は鹿児島市および指宿市に、西は枕崎市および南さつま市に隣接。南は東シナ海に面している。南部は美しい景観の海岸線が続き、中部には田畑が広がり、北から南東にかけて連なる山々は緑溢れ、薩摩半島最大の河川である万之瀬川の水源地となっている。平成19年12月1日に頤娃町（えい）、

知覧町（ちらん）、川辺町（かわべ）の3町が合併し南九州市が誕生した。人口は約 33,000 人。

産業別人口は第3次産業が48.1%で最も多い。

農業は、茶・さつまいもの生産と畜産が盛んである。

▶ 「畑の里 水土利館」の概要

① 設置に至る経緯

地域内外の住民や技術者を対象にして南薩における農業・農村の特性に関わる学習活動と情報発信を行い、持続可能な農業を確立するとともに、循環型社会としての農業農村を実現するため、土地改良の歴史や畑地かんがいのメカニズム・特徴を紹介する施設である。また農の基本資源である、水土の循環システムを学習する場として整備された。

② 事業内容

展示室 畑作農業の歴史資料や図表、漫画、ビデオによる紹介。

大きく次の4つの区分に分かれる。

- 1) 南薩畑地かんがい事業の概要
- 2) 南薩農業開発調査について
- 3) 畑地かんがい以前の営農の様子
- 4) 3Dシアター「水の冒険」



展示室へ



小学生にもわかりやすく
工夫された展示

お茶工房

南薩の特産農産物であるお茶について、手もみ体験学習の他、喫茶を楽しむ場所を有料にて提供。



茶もみを体験

▶考 察 ▶ ▶ ▶

緑豊かな山間地から開聞岳を遠くに眺めつつ到着した「畑の里 水土利館」は、県営中山間地域総合整備事業 KAM 南薩地区は平成 15 年から 2 か年をかけて、旧頤娃町時代に整備された。800 m²に及ぶ施設内は水と土の展示館やお茶工房、学習室が整備されている。

南薩畑地かんがい事業の概要や経緯を紹介したコーナーでは、約 40 年の歳月を費やし完成した総延長 21.5 km のかんがい整備の様子を詳しく説明。

火山灰に覆われた南薩の大地に、河川より池田湖に水を引き、ポンプアップにより標高 150 m 以下の畑地、6,072 ha を潤しているという展示で、この施設の名前

“水土利館”の意味がそこでようやく理解ができた。昭和 40 年代当時の県知事の発想と事業着手のリーダーシップにも驚かされる。

今では、特産品のさつまいもをはじめ、キャベツやお茶、園芸品の栽培に大きな役割を果たし地域振興に繋がっている、という事がわかりやすく解説してある。

他に、畑地かんがい以外の営農状況や南薩農業の生い立ちを映像で紹介する 3D シアター「水の冒険」コーナーがあり、市内の小学生は見学が、学習カリキュラムに組み込んであるとの事。

お茶工房では特産農産物である“知覧茶”の手揉み体験ができる。

身近な特産農産物である、お茶が出来る工程や体験を通し市民にはより身近に、またわがまちの一次産業とこれからの六次産業化を考える貴重な場となっていると感じた。

残念ながら現在は予約があった時のみ開館。コロナ前は年間 3,000 人近い来場者があったとの事なので、体験型施設が人気を呼んでいる現在、広報次第では再度の来場者増が容易に期待できると感じた。本市においては、農産物等の一次産業に特化した学習施設は無い。これまで以上に、後継者不足の問題解決や、食料自給に関する事、特産農産物の第六次化を考える上で、身近な生産物に関する学習の機会は大切である事に気付かされた視察研修となった。

令和5年青雲倶楽部視察研修報告



- 日 時・・・令和5年5月25日（木）10時～12時
- 視察先・・・鹿児島県指宿市 時遊館 cocco はしむれ
- 調査項目・・・「指宿まるごと博物館推進事業」について

鹿児島県 指宿市

山田龍太郎

地理・地勢

鹿児島市から南へ約 50 km の場所、薩摩半島の南東端に位置し、市の北東部から東部～南部～南西部にかけて東シナ海と鹿児島湾に面している。市域の中央部に池田湖があり、その東側には鰻池がある。市の南西部の東シナ海沿いには開聞岳がある。

主に海岸沿いに市街地が形成されているが、開聞岳近辺の地域では開聞岳より内陸に市街地がある。

指宿市は、平成 18 年 1 月 1 日に旧指宿市・山川町・開聞市の 1 市 2 町が合併し誕生した面積 148.82 km²、人口約 4 万人のまちである。

鹿児島県の薩摩半島南端部に位置し、錦江湾から東シナ海に臨む長く美しい海岸線を有している。市の全域を霧島火山脈が縦断しており、温泉の湧出量が豊富なことで全国に知られ、特に世界的にも珍しい「天然砂むし温泉」は、老若男女を問わず全国各地から、さらには「和風サウナ」として海外からも多くの観光客が訪れる。

年間の平均気温は、暖流の影響で約 18℃ と高く、温暖で亜熱帯的な気候のため、市内ではソテツが自生している。

農作物では温暖な気候と泉熱を利用したソラマメやオクラ、マンゴーなどのほか、観葉植物の栽培も盛んに行われている。

また、年間を通じて様々なスポーツイベントが開催されている。加えてサッカー、野球のキャンプ地として利用されている。

市の中央には九州最大のカルデラ湖である「池田湖」、南部には薩摩富士とも称される日本百名山の一つ「開聞岳」等々自然の恵が多々あり、観光の目玉となっている。

指宿まるごと博物館推進事業について

(1) 事業実施に至る経緯について

平成 28 年 3 月に策定した第 2 次指宿市総合振興計画（2016—2025）の中で、指宿市全体を博物館と捉え、市域にある文化財・自然・産業・施設・郷土芸能・伝統行事・イベント・人などの「指宿市の宝」すべてを貴重な「展示品」と位置づけ、それらを市民共有の財産として、守り、育て・継承していくシステムを作ると同時に、多彩な地域資源の情報を収集・整理し、活用する「指宿まるごと博物館構想」を推進することとした。

(2) 事業の内容及び成果について

指宿まるごと博物館構想を推進するために「指宿まるごと博物館実行委員会」

を組織し、平成 26 年度から文化庁の補助事業「地域文化財総合活用推進事業」を活用して事業を開始した。

主な事業として、「文化資産映像記録事業」として郷土芸能・伝統行事の映像記録を残す事業をはじめ、3 ヶ年かけて映像記録を作成した。

次に「情報発信事業」として市内にある文化財を知ってもらうためマップや図録の作成やボランティアガイド育成のための指宿市文化遺産を活用した「まち歩き」も毎年実施している。

これらの事業と並行して人材育成を目的に「伝統文化後継者育成事業」として平成 29 年度より指宿市郷土芸能保存会と協力して、リーダー研修会や郷土芸能で使用する衣装や道具の新調・修繕も行っている。

インバウンドに対する取り組みについて、指宿まるごと博物館事業の拠点「時遊館 cocco はしむれ」であり、社会教育施設であることから国内の小学校・中学校・高等学校を中心に情報発信を行っており、特段インバウンド対策は行っていない。

しかしながら、当然、外国人観光客も訪れることから、指宿駅構内や観光案内所、公共施設などで外国人向けに英語表記のガイド版を配布している。またパソコンやスマートフォンで見られる「指宿まるごと博物館」のホームページ掲載でも英語・中国語・韓国語での表記をしている。

(3) 課題及び今後の取り組みについて

伝統文化においては他市町村と同じく「少子高齢化による担い手不足」や「会員数の減」「新型コロナウイルス感染症拡大に伴う活動意欲の低下」が挙げられる。実際、会員数が 1 人になり指宿市郷土芸能保存会を脱会する保存会や、保存会の活動自体を辞める団体も増えている。

○有形文化財については、維持管理をする者・団体の確保が急務となっている。文化財自体の老朽化や経年劣化による損壊が進んでいるものが多く修繕も高額となることから、今後、台風などにより被災しても、そのまま放置され、文化財が消滅することが懸念されるとしている。

○市民が市内の有名な文化財を知っていても、身近にある文化財について知らない人が多いということ。将来的に「地域」が「地域にある文化財」を「守っていく」ことになる。よって情報発信で文化財の知名度向上が必要となってくる。

○文化財の保存、継承していくためには、維持管理費を賄い、かつ収益を生むことが見込める「稼げる文化財」としての活用を検討していくとしている。

○まち歩きガイドの育成については、高齢化による人員の減もあり、ボランティアガイドの育成が急務である。少人数の旅行形態が増えてきたことが理由に

挙げられる。

考 察

指宿市考古博物館 時遊館 cocco はしむれに於いて「指宿まるごと博物館推進事業」について研修講義を受けた。

講師は指宿市教育委員会生涯学習課文化財係の方々で一人は女性の学芸委員である。時遊館の建物南側に隣接する史跡公園には、古代隼人の村を復元。4棟の竪穴住居と貝塚・地層の展示施設がある。(1500年前の古代を体現できる。) 詳細な説明、そしてご案内を頂いた。

時遊館 cocco はしむれは「指宿まるごと博物館構想」を実現推進していくための拠点施設となっている。

市内小・中学校や地域からの要望に応じ学習のお手伝いをしたり「文化芸術活動の推進」、「地域文化の継承・発展」、「文化財の保存活用」教育委員会生涯学習課文化財係がこの施設に事業を集約し、目的別に役割を振り分けコーディネートしている。

各事業を継続的に実施していくために文化庁補助事業を活用し推進していくのは「指宿まるごと博物館実行委員会」である。

名取市においては東日本大震災後、文化的な事業の充実に力を入れ「歴史民俗資料館」を中心に、例えば、「おすすめ歴史スポット巡りコース」を企画し、古墳めぐりコース・なとり熊野詣コースなど実践している。また各公民館で企画する生涯学習教室による講座。家庭・学校・地域連携による、なとりの歴史教育、小学校、中学校の地域と学ぶ体験学習等々、名取市の新たな取り組みが定着しつつある。

このほか、名取市教育委員会の新たな取り組み、市史編さん室を設け資料の収集も本格化させている。着実にレベルアップしていると評価するものである。

名取市の充実した「文化・芸術」「地域文化の継承」「文化財の保存活用」について情報発信に力を入れて、少しでも多くの市民に知ってもらうため広範囲にわたる広報活動が望まれる。